

# 経営効率化説明資料

2023年3月24日  
東北電力株式会社

# 「発電電力量当たりの費用」の過去実績比較における増加要因について

- 「発電電力量当たりの費用」について、過去実績（2016～2021年度）平均2.33円/kWhに対して、原価算定期間平均は2.56円/kWhとなっております。
- 原価算定期間の「発電電力量当たりの費用」が増加する要因は、①・②原子力・水力修繕費の増加、③災害復旧修繕費※の織り込みおよび④2021年2月に発生した福島県沖地震影響などが挙げられます。
- ①・②は非化石電源の稼働増により燃料費の低減に寄与する費用、③は電気の安定供給に資する取り組み、④は地震災害による一時的な実績（修繕費）減の影響であり、これらの要因を考慮し過去実績比較の評価を行って頂きたいと考えております。 ※過去実績は、「特別損失」として災害復旧修繕費を計上しており、「発電電力量当たりの費用」に含まれていない。

## ◆ 発電電力量当たりの費用水準

### 【主な要因】

- ① 原子力修繕費の増加 +0.22円/kWh（女川2号再稼働関連修繕費等の増加）
- ② 水力修繕費の増加 +0.06円/kWh（高経年化設備修繕・浚渫等の増加）
- ③ 災害復旧修繕費の織り込み +0.04円/kWh
- ④ 2021年2月福島県沖地震影響 +0.01円/kWh（2021年度修繕費の減少）
- ⑤ メルクマール採用による人件費の減少 ▲0.08円/kWh など

全体として原価低減に資する費用および災害等に起因する要因

+0.23円/kWh



過去実績平均  
(2016～2021年度)



原価算定期間平均

①～④を考慮した場合、  
過去実績平均を下回る